

## お屠蘇で新年をお祝いしましょう！

実施日：2012年12月19日（水）、12月21日（金）

場所：関西大学 共同演習室1

対象：関西大学化学生命工学部「生薬学1」および「生薬学2」履修者

大阪薬科大学の「生薬学1」および「生薬学2」の担当者である芝野真喜雄先生より、「日本の平安時代の宮廷行事を起源として民間に伝承された生薬を使った本来のお屠蘇を元旦に飲み、長寿と健康を願って新年をお祝いしましょう」との企画で、大阪薬科大学の学生だけでなく、関西大学の「生薬学1」および「生薬学2」の履修者に向けても屠蘇散の生薬が贈られました。

古来の屠蘇散の処方に含まれる附子や大黄など作用の強いものを除き、基本の生薬（桂皮、白朮、陳皮、防風、山椒）以外に独自ブレンドとしてこれまで生薬学で学んだ甘草、桔梗、茴香、丁子、紅花などを加えた10種類が用意されました。本来の屠蘇散は散剤ですが、今回は刻みのため各生薬の量を多めにした約5gをお茶袋に入れて一晩（長すぎるとエグ味が出るため）、一合（180ml）くらいの日本酒または本みりんに浸漬し、2日以内に飲みきって下さいとのことでした（腐敗の危険があるため）。受講生たちは基本の生薬に、各自の好みの生薬を配合し、封筒に入れて持ち帰りました。元旦はオリジナルのお屠蘇で家族団欒を楽しむことでしょう。

